

わたしの 学級経営

～大切にしていること～



広尾町立広尾小学校

教諭 西田 智美

■はじめに

教員生活数十年。多くの子どもたちに出会い、楽しい経験をたくさんさせてもらいました。子どもたちも私も楽しいと思える学校生活にするために、特別なことではないですが、学級担任として大切にしていきたいいくつかの取組を紹介させていただきます。

■学級開き

1年で一番重要な学級開きは、子どもたちも私もドキドキです。新しい出会いを少しでもよいものにするべく、私はこの日までに学級の子どもの名前と顔を覚えるようにしています。1人ずつ名前を呼びながら対話を楽しみたいのです。しかし最近はその時間が取れない状況にあります。ですから、心掛けて「〇〇さんの挨拶はすばらしいね」「〇〇さんは姿勢がいいね」など声を掛けるようにしています。すると「名前を覚えてくれたの！」と驚いたり、笑顔を見せてくれたりする子どもたち。私も嬉しい気持ちになります。また、学級開きの日は、私が叱るときについての話もしています。例えば、

学級開きは、学級の仕組みやルールを

教えるための大切な時間。

■遊びから学ぶ

「3度言われても直そうとしないとき」について、なぜ駄目なのかをしっかりと説明します。そうすることで、今後の行動に布石を打っておくのです。この話をすると、後日、子どもから必ず「すごく怖い先生だと思っていた」と言われますが……。

このように学級開きは、学級の仕組みやルールを教えるための大切な時間となっております。

学校生活の中で授業はもちろん大切ですが、私の学級づくりの中心は「遊び」です。休み時間は、できるだけ子どもたちと遊ぶようにしています。なぜそうしているのかというと、一緒に笑い合えることに加え、普段の様子を知ることができるからです。友達に対する言葉の使い方が適切でないときや、ルールを勝手に変えたり、守らなかったりするなどの行動が見られたときには、その都度声を掛けることができるのも一緒に遊ぶよさです。

このような、気心の知れた仲間との遊びも大事ですが、それ以上に大事にしているのが「全員遊び」です。その

ため、係決めをする際には必ず「遊び係」を作ってほしいと伝えます。楽しく遊ぶためには、自分勝手な行動を慎み、「ルールを守ること」と「相手を思いやること」が必要だからです。



☆話し合いは必要？

・学習はもちろん、1年生を迎える会、遠足、運動会の種目内容、友達とのけんか、ふざけたことが・・・と、いうこともありました。事あるごとに「気持ちを伝え合う」「話し合う」「みんなで決める」ということを大事にしてきました。4年生になり3ヶ月、子どもたちはどのように感じているのかと「話し合いは必要でしたか？」と聞いてみました。

- 自分の気持ちもみんなの気持ちも伝えられるから必要。
- みんなと話せば、意見が出てくるので、そうすれば色々なことがわかるから。
- 運動会するとき、みんなで作戦を考えて、当日も協力して勝つた。
- けんかをしたときに、話し合わないで解決しないから必要。
- キックベースとかでも、作戦を立てるときに話し合ったり、けんかをしてしまったときにも、内容も知らずに入って、あおるとかあったから話し合って行動することが大事。
- 話し合うことは、人と交流ってこともあるし、話をしてみることでわかることもある。
- 自分だけのことじゃなく、みんなのことも考えられるから。
- けんかをしたとき自分の意見を話したら、すぐ仲直りができてよかったと思った。
- 話し合ったら戦争がおきる。自分の意見を主張してもいいけど、周りのことを考えないと、嫌われるから話し合ったほうがいい。
- 一人では解決しないし、みんなで決めないとみんなが楽しく過ごせないから。
- 話し合ったら、みんなの意見が聞けるし、自分の意見も言ったら「それがいいかも」とか言ってくれるかもしれないから必要。
- ドッジボールでもめても、みんなでルールを決めてきているから話し合いはできていて思う。

■「全員遊び」を通して

話し合いを深める

大抵の場合、「遊び！面白そう！」と「遊び係」が出来上がります。しかし、活動を始めると「この遊びはしたくない」「同じ人ばかり狙って面白くない」など不満が出るのです。ですが、これがチャンスです。「全員遊びは必要か」の問いに、みんな懸命に思いを伝えます。子どもたちにとって大事な休み時間のことであります。中には黙って

いる子どももいるため、「ここで意見を言わないで陰で言うのは最も駄目なことだからね」とくぎを刺し、見守ることにしています。自分たちのことは、自分たちの言葉で伝え合い、自分たちで決めてほしいのです。

このように、事あるごとに話し合い、気持ちを伝え合いながら決定（あるいは確認）していくことで、我慢することやルールを守ることの大切さ、思いやる気持ちが育っていくと私は思っています。「全員遊びなんていらぬ」と言っていた子どもたちが、遊びの日を楽しみにするようになっただけでなく、行事なども自分事として捉えるようになり、協力してやり遂げようという雰囲気が出来上がってきました。

私にできることは、時機を逃さず話し合う機会を与えることや言葉足らずな部分を補うこと、子どもたちの頑張りや声を掛け続けることです。そうすることで子どもたちは達成感や充実感を得ることができるようではないでしょうか。そして、これらの成長を学級通信や懇談会を通して保護者に伝え、一緒に見守ってもらっています。

■頑張りうと思える

雰囲気づくり

学級の雰囲気づくりにあたって、私は常々「言葉って面白いなあ」と思っています。「○○しなさい！」と言われると嫌な気分になるけれど、「○○したほうがいいと思うけど、どう？」と問われると「どうしようかなあ」という気持ちになります。

子どもに対して、できていないことを叱るのはこちらも重い気分になってしまうので、頑張りっている子どもへ声を掛けをするよう心掛けています。「隅々まできれいにしてくれてありがとう」「字がきれいだね。とても見やすいよ」「○○さんのおかげで大事なことに気付けたよ」と、間違いや失敗もプラスとして捉えて声を掛けることで、お互い温かい気持ちになるのです。そして、不思議なことに、そのよさがじんわりと学級中に広がっていくのです。

■おわりに

この仕事に就いて数十年。大変なことも悩むこともあるけれど、いつも仲

間違いや失敗もプラスとして捉えて

声を掛けることで、お互い温かい気持ちになる。

間や子どもたちに支えられながら楽しく仕事をさせてもらっています。今回書かせてもらったように、私の願いは、「言葉を交わすことで互いを知り、助け合える気持ちをもつてほしい。今の自分を乗り越える強さを育ててほしい」ということです。そして自分らしく生きてほしいのです。これからも、一日一日を大切に、できることをコツコツと続けていきたいと思っています。

